Satomi Hashimoto ©

{学習支援室　特別編：イントロダクション}
生化学・生理学・解剖学をつなげるおはなし

「試験が近いよ！なんでこんなに勉強しなきゃいけないの？」
年末・年始はこんな声が聞こえてきそうですね。
その問いに対する答えはたくさんあると思うのですが。
「将来の可能性を広げるため」なんじゃないかな…と思うのです。

極端な例をあげましょう。
Ａという職場は、１日８時間働いて、休日は週に１日。お給料が月 20 万とします。
かたやＢという職場は、
１日６時間働いて、休日は必ず週に２日。お給料は月 25 万だったとしましょう。
書かれていない条件は、１つを除いて全く一緒。
その条件は「指示する資格を有していること」だったら…？
これ、Ｂで働きたいですよね。
お給料もいいし、休みも多い。ましてや１日の拘束時間も短い。
ただしＢに勤めるためには、その「資格」がないといけないのです。

資格に何が含まれるかは実際の就職状況によってことなるでしょう。
分かっていることは、今勉強をしっかりすることは、
就職に関係する資格の勉強に直接つながっているということです。
試験科目は、資格と無関係ではありません。
こんなことを言うと「そもそも大学とは～」という話が始まってしまいそうですが、
ここでは勇気をもってその話には入りません。
今、している勉強。
それは将来の自分の生活を支えるものに他ならないのです。

…いきなり大上段に構えたお話、おしまい。
でも、勉強する気、起きてきましたよね。
それこそが大事です。
いやいややってても、勉強は頭に入りません。
面白そう、楽しそう、役に立ちそう。
そんな気分で勉強することこそ、記憶に残る秘訣なのです。
みんなだって、自分の好きなことについては
自分から進んで調べて、詳しく覚えてるものでしょう？
（これ、脳の神経伝達レベルからわかっていることですよ？）

今回の特別編は、生化学・生理学・解剖学をまとめてみてみよう！という試みです。
これ、まじめにやったらすごく時間かかります。
なので、大まかな枠組みをあっさりとやっていくことにします。

栄養だけやればいいのに…と思うかもしれませんが、ちょっと待った。
栄養は、それだけでは意味がありません。
吸収する「ヒト」がいてこその栄養なのです。
その「ヒト」を違う角度から見たものが、
生化学であり、生理学であり、解剖学なのです。
そして「うまく栄養を吸収できないとき」や
「栄養をうまく吸収できなかったらどうなるのか」が、病態学の話になってきます。
そうです。
これらの科目は完全に独立したものじゃないんです。
全てはつながっている、これが分かると困ったときに糸口が見つかりやすくなります。
（…覚えなきゃいけない専門用語を忘れたら…きついかもしれないけど…）

ドキッとした人、面白そうだと思った人。
どうぞ学習支援室に来てください。
こちらからも特別編は作成・公開（掲示・配布）していく予定ですが、
聞きに来てくれたらさらに関連する話ができます。
そうすると、もっとつながりが分かってきます。
もちろん、プリントに今までの授業で勉強したことをメモしてまとめてもＯＫ！
そうすれば、自分で作る基礎科目つながりマップの出来上がりです。

将来の可能性、せっかくだから広くしましょう。
そうすれば、今している勉強は大学時代の消耗ではなくて、
意味のある勉強時間になりますよ！